

BACCALAURÉAT FRANÇAIS INTERNATIONAL
SESSION 2024

SECTION : JAPONAISE

ÉPREUVE : APPROFONDISSEMENT CULTUREL ET
LINGUISTIQUE

DURÉE TOTALE : 4 HEURES

PARCOURS BILINGUE

Le candidat traitera un sujet au choix parmi les 3 sujets proposés.

L'usage de la calculatrice et des dictionnaires est interdit.

Dès que ce sujet vous est remis, assurez-vous qu'il est complet.
Ce sujet comporte 8 pages numérotées de 1/8 à 8/8.

次の三つの設問のうち、一つを選んで解答しなさい。選択した設問は必ず解答用紙に明記すること。

【設問一】 論述 Composition ou essai sur un sujet littéraire

日本の近現代文学作品において、社会や集団に属する人々が持つ集団意識というものは、その他の登場人物（個人）に対してどのような影響を与え、そしてそれが作品中でどのような意味を持ってきたのだろうか。プログラム作品やこれまで読んだことのある日本の文学作品を例に挙げながら、一六〇〇字以上で論じなさい。なお、解答には所定の原稿用紙を用いること。

【設問二】 解説 Commentaire composé d'un texte littéraire

次の課題文を解説しなさい。なお、所定の原稿用紙を用いて、一六〇〇字以上で解答すること。

【課題文】 『竹取物語』（九世紀末～十世紀初頭成立と推定）より

かかるほどに宵うちすぎて、子の時ばかりに、家のあたり、屋の明さにも過ぎて、光りたり。望月の明を十合せたるばかりにて、在る人の毛の穴さく見ゆるほどなり。大空より、人、雲に乗りて下り来て、土より五尺ばかり上りたるほどに立ち連ねたり。内外なる人の心ども、物におそはるるやうにて、あひ戦はむ心もなかりけり。からうじて、思ひ起こして、弓矢をとりたてむとすれども、手に力もなくなりて、萎えかかりたる、中に、心さかしき者、念じて射むとすれども、ほかさまくいきければ、荒れも戦はで、心地ただ痴れに痴れて、まもりあぐり。

立てる人どもは、装束のきよなること物にも似ず。飛ぶ車一つ具したり。「羅蓋さしたり。その中に、王とおぼしき人、家に、「みやうこまろ、まうで来」といふに、猛く思ひつるみやうこまろも、物に酔ひたる心地して、うつろしに伏せり。

いはく、天人の王「汝、幼き人。いとさかなる功德を、翁つくりにけるによりて、汝が助けにとて、かた時のほどとてくだしを、そのらの年ごろ、そのらの黄金賜ひて、身を変へたるがことなりになり。かぐや姫は罪をつくりたまへりければ、かく賤しきおのれがもとに、しばしおはしつるなり。罪の限りはてぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。あたはぬことなり。はや返してたてまつれ」といふ。

翁答へて申す、「かぐや姫をやしなひたてまつること二十余年になりぬ。『かた時』とのたまふに、あやしくなりはべりぬ。また異所にかぐや姫と申す人ぞおはしますらむ」といふ。翁「ここにおはするかぐや姫は、重き病をしたまへば、えいでおはしますまじ」と申せば、その返りとはなくて、屋の上に飛ぶ車を寄せて、「いざ、かぐや姫、穢き所に、いかでか久しくおはせむ」といふ。立て籠めたる所の戸、すなわちただあきにあきぬ。格子どもも、人はなくしてあきぬ。嫗抱きてゐたるかぐや姫、外にいでぬ。えととむまじければ、ただちし仰ぎて泣きをり。

たけとり心惑ひて泣き伏せる所に寄りて、かぐや姫いふ、「ここにも、心にもあらでかくまかるに、のぼらむをだに見送りたいまへ」といふども、翁「なにしに、悲しきに、見送りたいまへらむ。我を、いかにせよとて、捨ててはのぼりたまふぞ。具して率ておはせぬ」と、泣きて伏せれば、御心惑ひぬ。かぐや姫「文を書き置きてまからむ。恋しからむをりをり、取りいでて見たまへ」とて、うち泣きて書く言葉は、

この国に生れぬるとならば、嘆かせたてまつらぬほどまで侍らん。過ぎ別れぬること、かくすがへす本意なくこそおぼえはべれ。脱ぎ置く衣を形見と見たまへ。月のいでたらむ夜は、見おこせたまへ。見捨てたてまつりてまかる、空よりも落ちぬべき心地する。

と、書き置く。

天人の中に、持たせたる箱あり。天の羽衣入れり。またあるは、不死の薬入れり。一人の天人いふ、「壺なる御薬たてまつれ。穢き所の物きこしめしたれば、御心地悪しからむものぞ」とて、持て寄りたれば、いささかなめたまひて、すこし、形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、在る天人包ませず。御衣をとりいでて着せむとす。

その時に、かぐや姫、「しばし待て」といふ。かぐや姫「衣着せつる人は心異になるなり」といふ。物一言いひ置くべきことありけり」といひて、文書く。天人、「遅し」と、「心もとながりたまふ。

かぐや姫、「物知らぬこと、なのたまひそ」とて、いみじく静かに、朝廷に御文奉りたまふ。あわてぬさまなり。

かくあまたの人を賜ひて、とどめさせたまへど、許さぬ迎へまうで来て、取り率てまかりぬれば、口惜しく悲しきこと。宮仕く仕らまつらずなりぬるも、かくわづらはしき身にてはべれば、心得ず思しめされつらめども。心強くうけたまはらずなりにしこと、なめげなるものと思しめしとどめられぬるなむ、心にとまりはべりぬる。

とて、

かぐや姫 今とはて天の羽衣着るをりぞ君をあはれと思ひいだける

とて、壺の薬そくて、頭中將を呼び寄せて奉らす。

中將に、天人とりて伝ふ。中將とりつれば、ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、翁を、いとほし、かなしと思しつることも失せぬ。この衣着つる人は、物思ひなくなりなければ、車に乗りて、百人ばかり天人具して、のぼりぬ。

【語注】

一 羅蓋 「羅」はうす絹。羅を円形に張り周囲に房などをつけ、貴人の後方からさしかける豪華な日よけ傘。

二 心もとながる じれったく思ふ。

三 なめげ 失礼だ。無礼だ。

【設問三】 要約、語彙に関する問い、文学的議論 Résumé d'un texte, suivi de questions de vocabulaire et d'une discussion

次の課題文をもとに、あとの二つの課題すべてに取り組みなさい。なお、いずれの課題も所定の原稿用紙を用いて解答すること。

【課題文】 村田沙耶香『コンビニ人間』（二〇一六年）より

レジを打っている女の子が、怪訝^{けげん}な顔でこちらを見ている。私の動きに気が付いているが、行列ができているので動きが取れないようだ。私は胸のベジジを見せるような仕草をしながら、「おはようございます！」とお客様のじやまにならない程度の声で呼びかけ、会釈をした。

ほっと安心したような表情になり、女の子は小さく会釈を返して、レジに集中し始めた。スーッ姿の私を、本社の社員だとでも思ったのだろうか。こんなに簡単に騙^{だま}されてしまうなんて、安全管理がなっていないと思う。私がもしも悪い人間で、バックルームの金庫をあけたりレジのお金を盗んだりしたらどうするつもりなのだろう。

後で注意しないと、と思つて視線を戻すと、「あ、みてみて、このお菓子、ホワイトチョコが出たんだー！」と女性客二人組が、私が並べた新商品を手に盛り上がっている。

「これ、CMで今日見たよ！ 食べてみようかなー」

コンビニはお客様にとって、ただ事務的に必要なものを買う場所ではなく、好きなものを発見する楽しさや喜びがある場所であってはいけない。私は満足して領^{うけと}きながら、店内を早足で歩き回った。

今日は暑い日なのに、ミネラルウォーターがちゃんと補充されていない。パックの2リットルの麦茶もよく売れるのに、目立たない場所に一本しか置いていない。

私にはコンビニの「声」が聞こえていた。コンビニが何を求めているか、どうなりたがっているか、手に取るようにわかるのだった。

行列が途切れ、レジにいた女の子が私のほうへ駆け寄ってきた。

「わあ、すごい、魔法みたい」

私が整えたポテトチップスの売り場を見て眩^{くら}く。

「今日、一人バイトが来れなくなって、店長に連絡したけれど繋^{つな}がらなくて、困ってたんです。新人さんと二人で……」

「そうですか。でも、レジの様子を見ていましたが、礼儀正しくてとてもよかったですよ。ピー

クが落ち着いたら、冷たい飲み物の補充をしてあげてください。アイスも、暑くなってきたらさっぱりした棒アイスのほうが売れるので、売り場を直してあげるといいですね。それと、雑貨の棚が少し埃^{ほこり}っぽいですね。一度、商品を下げて棚清掃を行ってください」

私にはコンビニの「声」が聞こえて止まらなかつた。コンビニがなりたがっている形、お店に必要なこと、それらが私の中に流れ込んでくるのだった。私ではなく、コンビニが喋^{しゃべ}っているのだった。私はコンビニからの天啓^{てんけい}を伝達しているだけなのだっただ。

「はい！」

女の子は信頼しきった声で返事をした。

「それと、自動ドアにちょっと指紋がたくさんついてしまってますね。目立つところなのでそこも清掃してあげてください。あと、女性客が多いので、春雨^{はるあめ}スープがもつと種類があるといいですね。店長に伝えておいてください。それと……」

コンビニの「声」をそのまま女の子の店員に伝えていると、

「何をしてるんだー！」

という怒鳴り声が出た。

白羽^{しろは}さんがいつのまにかトイレから出てきて、私の手首を掴^{つか}んで叫んでいるのだった。

「お客様、どうなさったのですか」

反射的に答えると、「ふざけるなー！」と言われて、店の外へと連れて行かれた。

「何、馬鹿なことをやってるんだ、お前はー！」

道路まで私を引き摺^ずって怒鳴った白羽さんに、私は言った。

「コンビニの『声』が聞こえるんです」

私の言葉に白羽さんは、おぞましいものをみるような目になった。白羽さんの顔を包んでいる青白くて薄い皮膚が、まるで握りつぶしたようにしわくちゃになった。

それでも、私は引き下がらなかつた。

「身体の中にコンビニの『声』が流れてきて、止まらないんです。私はこの声を聴くために生まれてきたんです」

「なにを……」

白羽さんが怯^{おそ}えたような表情になり、私は畳み掛けた。

「気が付いたんです。私は人間である以上にコンビニ店員なんです。人間としていびつでも、たとえ食べて行けなくてのたれ死んでも、そのことから逃れられないんです。私の細胞全部が、コンビニのために存在しているんです」

白羽さんは黙って、しわくちやの皮膚の顔をしたまま、私の手首を引っ張り、面接の会場へと連れて行くとした。

「狂ってる。そんな生き物を、世界は許しませんよ。ムラの掟^{おきて}に反している！ 皆から迫害されて孤独な人生を送るだけだ。そんなことより、僕の為に働いたほうがずっといい。皆、そのほうがほっとするし、納得する。全ての人が喜ぶ生き方なんですよ」

「一緒には行けません。私はコンビニ店員という動物なんです。その本能を裏切ることとはできません」

「そんなことは許されないんだ！」

私は背筋を伸ばして、『誓いの言葉』を言うときのように、白羽さんに真っ直ぐ向き合った。

「いえ、誰に許されなくても、私はコンビニ店員なんです。人間の私には、ひょっとしたら白羽さんがいたほうが都合がよくて、家族や友人も安心して、納得するかもしれない。でもコンビニ店員という動物である私にとっては、あなたはまったく必要ないんです」

こうして喋っている時間をもったいなかった。コンビニのためにまた身体を整えないといけない。もっと早く正確に動いて、ドリンクの補充も床の掃除ももっと早くできるように、コンビニの「声」にもっと完璧に従えるように、肉体のすべてを改造していかなくてはいけないのだ。

「気持ちが悪い。お前なんか、人間じゃない」

吐き捨てるように白羽さんが言った。だからさつきからそう言っているのに、と思いながら、私は白羽さんに掴まれていた手をやっとはずして、自分の胸元で抱きしめた。

お客様にお釣りを渡し、ファーストフードをお包みするための大切な手だ。白羽さんの粘^{ねば}りついた汗がついているのが気持ちが悪くて、これではお客様に失礼になってしまうと、早く洗いたくて仕方がなかった。

「絶対に後悔するぞ、絶対にだ！」

白羽さんはそう怒鳴って、一人で駅の方へと戻って行った。私は鞆^{かばん}から携帯を取り出した。まずは面接先へ、自分はコンビニ店員だから行くことはできないと伝えて、それから新しい店を探さなくてはならない。

私はふと、さつき出てきたコンビニの窓ガラスに映る自分の姿を眺めた。この手も足も、コンビニのために存在していると思うと、ガラスの中の自分が、初めて、意味のある生き物に思えた。

「いらっしやませー！」

私は生まれたばかりの雛^{おひな}子と出会った病院のガラスを思い出していた。ガラスの向こうから、私とよく似た明るい声が響くのが聞こえる。私の細胞全てが、ガラスの向こうで響く音楽に呼応

して、皮膚の中で蠢^{うごめ}いているのをはっきりと感じていた。

【課題】

課題一 次の条件を守って、課題文の粗筋を書きなさい。

- ・ 一人称の叙述形式をとること。
- ・ 字数は四〇〇字以上六〇〇字以内とすること。なお、改行等に伴う空白のマスは字数に含まないものとする。

課題二 傍線部「コペンハーゲンからの天啓^{てんけい}」とは何か。文中の言葉を用いて説明しなさい。

課題三 この小説はコペンハーゲンで終わったと言えるかどうか、一一〇〇字以上で論じなさい。